

東横イングループの考え方

東横イングループはこう考えます。

成長発展を持続し続ける経営を目指すためには、常に新たな時代に適合した戦略や体制を構築・展開していく必要があります。だからといって、いままで培ってきた経営の基本的な考え方とホテル運営のビジネスモデルの基本は、一切変えることはありません。

しかし、お客様やお取引様の信頼・ご支持を獲得しつづけていくためには、それ以外のものは全て変えていくぐらいの勇気を持って取り組む覚悟がなければならないと考えます。今、東横イングループはその覚悟を持って進んでいます。

同時に、時々立ち止まり、足元を見つめることも忘れません。

《東横イングループ2つの使命》

- I. 社会に受け入れられる「きれい、安心、便利、安い」日常型ホテルを世界中のお客様に1,045万室提供すること。
- II. 「気づき」のトレーニング(内観)を行い、「気づき」を大切に、「気づき」を身に付け、真の「気づき」を世界に広めること。

(自分達も内観をしながら世界の人に一人でも多く内観を通じて「気づき」のトレーニングを経験してもらう。)

《経営理念》

- I. お客様、オーナー様、そして社員に信頼される三方一両得[※]の経営を愚直に実践します。
- II. 国内外を問わず、地域の文化風習を十分理解して、馴染み、地域の役に立つ努力をしていきます。
- III. 気づきを大切に、常に独自性を追求する世界規模のNO.1ビジネスホテルチェーンを目指します。

※「三方一両得」…昔、近江国(現在の滋賀県)から全国を行商しながら各地に出店し、その家業を発展させた近江商人にとっては、もともと何のゆかりもなかった人々から信頼を得ることが一番肝心でした。その「買い手よし、売り手よし、世間よし」の近江商人の考えは、まさに現代の東横イングループの理念に通じるものです。

《5つの責任》

I. お客様への責任

1. 世界中のどの店舗でも、同一の設備・サービスを提供し、お客様が安心して宿泊できる客室を提供していきます。
2. お客様が「勝手知ったる我が家」と感じていただける日常性を追求し、提供していきます。

II. オーナー様への責任

1. お借りした建物を常に磨いて、30年後にもピカピカでお返りする事を目指していきます。
2. オーナー様に安心していただくために、毎日・いつもお客様に満足を提供しながら業績向上に努め、賃料を安定してお支払いしていきます。

III. 社員への責任

1. 社員の自己実現、生き生きとした輝きの実現を支援していきます。
2. 会社に貢献した社員は、年をとっても仕事の面倒を見ていきます。

IV. 社会への責任

1. コンプライアンス体制の強化をさらに進めます。
2. 環境保護、社会貢献への取組を積極的に行います。
3. 全ての人に優しいホテルを目指します。
(ユニバーサルデザインの対応)

V. ホテルのある地域への責任

1. 出店地域での雇用創出等を通じ、地域社会の活性化に寄与いたします。
2. 地域活動への参画、応援を積極的に行います。

具体的行動規範

I. 会社は

1. 法令を遵守することを常に認識し行動する。
法律はきちんと守る。行政からの納得できない点については、無視せずに自ら調べるか、顧問弁護士など専門家に聞き、行政と話し合っ解決いたします。
2. 環境問題を常に認識し、資源の有効活用を図る。
環境にやさしい素材の使用、使い捨て部分の少ない備品の購入等、省資源・省エネルギーを推進します。
3. 人権を尊重し、差別につながる事項は行わない。
 - ・無理の強要、差別、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントの発生を防ぐ対策をとり、発生時は厳正・適切に対処します。
 - ・「男女雇用機会均等法」を遵守した運営を行います。
4. 反社会的勢力及び団体は、断固として排除する。
会社の利益を図るために、反社会的勢力を利用しません。
また、社会生活を脅かす反社会的勢力とは、断固として対決します。
5. 積極的に社会貢献活動を行う。
ホテルのある地域と良好な関係を構築し、地域社会の一員として地域の発展に貢献していきます。
6. 国際的な事業活動においても、その地域の発展に貢献する経営を行う。
国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習を良く理解し、良い所を取り入れ、現地になじみ、最後は現地の会社と思われるぐらいにします。
(海外では、良く理解するまで、言葉以外は日本スタンダードで運営します。)
7. 安全で働きやすい職場環境の実現の工夫を続ける。
より快適な、働きやすい職場環境の維持向上に努めます。
8. 個人情報適切に管理し、無断で会社外へ開示・漏洩しない。
 - ・個人情報は適切に管理し、許可された目的以外には使用しません。
 - ・他社へはもとより、自社内である事に関わりなく、不必要に流出させません。
9. 必要な情報は開示する。
 - ・オーナー様、お客様、お取引先等に対して適宜適切な企業情報の開示を心掛けます。

II. 社員は

1. 常に「もっと清潔に安心感と値頃感」の方針を認識し、グループ社員一丸となって協力する。
 - ・経営理念の実現のため、お客様にいつも喜んでいただく様に工夫とたゆまぬ努力をいたします。
 - ・ホテルと会社を1ミリでも良くし、お客様に喜んでいただくことが私達の仕事です。
2. 「気づき」を大切にする。
 - ・「していただいた事、して返した事、ご迷惑をおかけした事」を常に考え、周りの人に支えられている自分、周りの人を支えている自分を常に認識します。
 - ・周りの人に支えられて達成した事を、自分だけの手柄にするような事はしません。
 - ・間違いは、まず素直にあやまります。

3. 法令を遵守することを常に認識し行動する。
法律はきちんと守る。行政からの納得できない点については、無視せずに自ら調べるか、顧問弁護士など専門家に聞き、行政と話し合っ解決します。
4. 人権を尊重し、差別につながる行為を行わない。
「男女雇用機会均等法」の遵守を常に認識し、また、無理の強要、差別、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントは行いません。
5. 取引先等には、常に節度をもって誠実に接する。
オーナー様、お客様、お取引先等に対して、信用・信頼・名誉を損なう行動や発言をしません。
6. 企業固有情報・個人情報は適切に管理し、無断で会社外へ開示・漏洩しない。
 - ・個人情報は適切に管理し、許可された目的以外には使用しません。
 - ・自社、他社である事に関わりなく、その情報が正式に公表されるまでは、第三者に口外しません。また、社外や第三者のいる場所で、その情報について話しません。
7. 自社の知的財産権を保護し、他者の知的財産権を尊重する。
 - ・会社の著作権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権等の知的財産権は適切に利用し、その権利の保全をします。
 - ・他社の知的財産権を無断で使用しません。
8. 積極的に社会貢献活動に参加する。
ホテルのある地域の皆様と良好な関係を構築し、地域社会の一員として地域の発展に貢献していきます。
9. 国際的な事業活動においても、その地域の発展へ役立つ努力を行う。
国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習も尊重し行動します。
10. 必要な情報は開示する。
オーナー様、お客様、お取引先等に対して適宜適切な企業情報の開示を心掛けます。